

令和2年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

未来予測が困難な後期近代社会を生き抜くために、グローバルかつローカルな視点を持ち、新たな価値を創造する力と社会を生き抜く人間力を養い、社会をリードする人材を輩出する学校をめざす。

1. 育てたい生徒の4つの資質

流動化する社会の中でも「世の為、人の為」という原点になる志をもち、己を鍛える生徒	(志を持ち、己を鍛える)
幅広い教養(リベラル・アーツ)を身につけ、知性を磨き、新たな価値を創造する生徒	(知性を磨き、価値を創造する)
己を知り、社会を知り、世界を知り、人生を描くことが出来る生徒	(己を知り、人生を描く)
人と繋がり、地域・社会と繋がり、世界と繋がる、心身ともに健全で規律ある生徒	(人・社会・世界と繋がる)

2. めざすべき教職員集団の4つの観点

常に「生徒のために」の原点を忘れず、新たな教育課題に果敢に挑戦する教職員集団	(果敢に挑戦する)
互いに成長しあい、学びあい、切磋琢磨する教職員集団	(切磋琢磨する)
同僚性に富み、互いに支えあい、強みを活かし、弱みを克服する教職員集団	(同僚性に富む)
互いの役割分担を認め、相互理解するチーム力のある教職員集団	(チーム力がある)

2 中期的目標

1. 思考力・判断力・表現力を養い主体的に学ぶ力を育成する。

(1) 進路実現に結びつく質の高い授業を生徒に提供する。

ア 授業アンケートのデータおよび自由記述にみられる生徒の生の声に真摯に向き合うとともに、公開授業・研究授業などに組織的に取り組む。
生徒向け学校教育自己診断「学力のつく授業が多い」の肯定感(H29:66.3%、H30:63.9%、R1:72.6%)、「本校の学習だけで進路達成に必要な学力が身につく」の肯定感(H29:50.9%、H30:43.7%、R1:44.9%)を毎年3ポイントずつ引き上げ、令和4年度には各項目を9ポイント向上させる。
授業アンケート「授業内容に興味・関心を持つことができた」の肯定感(H29:75.6%、H30:77.8%、R1:80.0%)、「授業を受けて知識や技能が身についた」の肯定感(H29:78.4%、H30:80.5%、R1:83.2%)を毎年2ポイントずつ引き上げ、令和4年度には各項目を6ポイント向上させる。

(2) 社会への移行を見すえ、知識・技能の習得だけではなく、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう社会性を育成するため、アクティブ・ラーニング型授業(以下、ALまたはAL型授業とする)を促進する。

ア AL型授業を積極的に取り入れ、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改革に取り組む。
生徒向け学校教育自己診断「思考力・判断力・表現力を養う工夫をしている先生が多い」の肯定感(H29:59.1%、H30:58.4%、R1:63.9%)、教員向けアンケート「AL型授業を実践した」(H29:42.9%、H30:45.6%、R1:68.3%)を毎年3ポイントずつ引き上げ、令和4年度には各項目を9ポイント向上させる。

(3) 自ら課題を見つけ探究心をもって主体的に学ぶ力を育てる。

ア 「総合的な探究の時間」の内容や指導方法を発展させるとともに、学校内外の授業以外の学びの場を提供することで、学ぶことの興味・関心を育て、自己の在り方生き方と関連付けながら、主体的・協働的によりよい社会を実現しようとする態度を養う。
保護者向け学校教育自己診断「学校は社会に役立つ有意義な人材を育成しようとしている」の肯定感(H29:79.4%、H30:73.2%、R1:72.1%)を毎年3ポイントずつ引き上げ、令和4年度には9ポイント向上させる。
生徒向け学校教育自己診断「授業以外にも興味・関心を持たせる学びの場がある」の肯定感(H29:49.9%、H30:49.2%、R1:53.9%)を毎年3ポイントずつ引き上げ、令和4年度には9ポイント向上させる。
生徒向け学校教育自己診断「補習や補講が生徒のニーズに沿って行われている」の肯定感(H29:69.2%、H30:69.4%、R1:72.5%)、「自習室の開放は学習時間の確保に役立っている」の肯定感(H29:76.3%、H30:48.1%、R1:61.4%)を毎年3ポイントずつ引き上げ、令和4年度には9ポイント向上させる。
教員向けアンケート「VOD(Video on Demand)型学習は学力の向上に役立っている」(令和元年度肯定感68.3%)を毎年3ポイントずつ引き上げ、令和4年度には9ポイント向上させる。

2. 高い志を持ち進路実現をするためのキャリア教育を充実させる。

(1) 系統的なキャリア教育の充実を通じて、進路実現の意識の醸成を行う。

ア 「総合的な探究の時間」や進路別分野別説明会・大学見学・卒業生との対話集会等の充実を図る。
生徒向け学校教育自己診断「ホームルームや『総合的な探究の時間』などで進路や生き方について考える機会がある」の肯定感(H29:74.1%、H30:76.3%、R1:77.5%)を毎年2ポイントずつ引き上げ、令和4年度には6ポイント向上させる。
イ 個々の生徒の学習状況・進路志望状況を教員が把握するとともに、生徒に振り返りをさせ、進路実現への道筋を明確にするキャリアカウンセリングを充実させる。
生徒向け学校教育自己診断の「学力学習実態調査・到達度テスト・模試は、学習に取り組む態度を改善するために役立っている」の肯定感(H29:57.7%、H30:55.7%、R1:57.7%)を毎年3ポイントずつ引き上げ、令和4年度には9ポイント向上させる。

(2) 二つのコース(アドバンスト・スタンダード両コース)間の切磋琢磨を促進し、進路実績の向上をめざす。

ア 二つのコースの充実及びコース間の切磋琢磨を促進する。特にスタンダードコースのキャリア教育を進め、スタンダードコースを活性化させる。
生徒向け学校教育自己診断「本校のコースは、学習環境の充実や進路実現に役立っている」の肯定感(H29:69.3%、H30:71.3%、R1:75.2%)を毎年3ポイントずつ引き上げ、令和4年度には9ポイント向上させる。特に、同項目の両コース間のポイント差(アドバンストコースの肯定感-スタンダードコースの肯定感)(H29:12.2、H30:12.3、R1:11.3)を3年間で5ポイント以内にする。

イ 国公立大学及び難関私立大学の進学実績の向上を図る。

合格者実人数：令和4年度卒 国公立 25名、関関同立近 180名以上をめざす。(現役実人数 国公立 H29:15名、H30:17名、R1:9名、関関同立近 H29:153名、H30:108名、R1:136名)

3. 人と繋がり、社会と繋がり、世界と繋がる力の育成をめざす。

(1) 自主活動を推進発展させる

ア 行事・クラブ活動などの自主活動を促進し、コミュニケーション能力・組織力・マネジメント力を養う。

生徒向け学校教育自己診断「ホームルーム活動は活発」の肯定感(H29:72.3%、H30:72.0%、R1:75.8%)、「学校行事に生徒が主体的に取り組める工夫」の肯定感(H29:80.4%、H30:80.2%、R1:83.7%)、「部活動や自治会活動などの自主的な力を伸ばす」の肯定感(H29:73.9%、H30:73.7%、R1:76.5%)を毎年2ポイントずつ引き上げ、令和4年度には各項目を6ポイント向上させる。

(2) グローバル資質の育成を推進する。

ア 海外での語学研修や国際交流、留学生の受け入れなどを促進し、グローバル資質の育成を行う。

生徒向け学校教育自己診断「国際理解教育に力を入れている」の肯定感(H29:74.8%、H30:63.9%、R1:69.4%)を毎年2ポイントずつ引き上げ、令和4年度には6ポイント向上させる。

(3) 地域連携強化によるローカル資質の育成の推進

ア 「行きたい高校」「地域から愛される学校」であり続けるため、保護者・中学生・中学校教員への学校説明会の充実をはかるとともに、地域の活動に貢献する。

入試の志願倍率(H30:1.53倍、H31:1.37倍、R2:1.27倍)を今後も維持する。

イ 司馬遼太郎記念館をはじめ、大学、公共施設、民間団体などとの連携を促進する。

教員向けアンケート「本校はさまざまな地域の活動に参加・貢献している」の肯定感(H30:50.1%、R1:76.7%)を毎年3ポイントずつ引き上げ、令和4年度には9ポイント向上させる。

ウ 自校での防災意識を高めるとともに、地元の小中学校・自治体等と連携した防災活動を推進する。

生徒向け学校教育自己診断「本校で地震や火災の際の対応は知らされている」の肯定感(H29:68.7%、H30:77.3%、R1:70.3%)を毎年3ポイントずつ引き上げ、令和4年度には9ポイント向上させる。

4. 自己を厳しく律する力と自尊心を育成するとともに、安全で安心な学びの場を構築する。

(1) 個々の生徒への指導と支援を丁寧に行う。

ア 挨拶指導・遅刻指導を促進する。

年間遅刻回数を1,800件以下にする。(H29:2,089件、H30:2,327件、R1:2,259件)

イ 教育相談委員会の活性化および生徒支援の充実を図る。

生徒向け学校教育自己診断「学校は悩みや相談に親身になって応じてくれる」の肯定感(H29:64.5%、H30:64.0%、R1:67.9%)を毎年3ポイントずつ引き上げ、令和4年度には9ポイント向上させる。

5. 教職員集団「チーム布施高校」の育成

(1) 教育課題に果敢に取り組む教職員集団の育成

ア 新たな教育課題にチャレンジし、教職員間が切磋琢磨しながら、同僚性に富んだチームワークのある教職員集団の育成を図る。

教員向け学校教育自己診断「本校がめざす学校像を実現するために、教職員は同僚性を高め、協力して教育活動を行っている。」の肯定感(H29:37.2%、H30:56.3%、R1:51.2%)を毎年5ポイントずつ引き上げ、令和4年度には15ポイント向上させる。

イ 教職員の授業力・キャリア教育力の向上を図る。

生徒向け学校教育自己診断の関連3項目を毎年3ポイントずつ引き上げる。

ウ 校内研修の開催、校外研修への参加、研究授業の実施を促進し、高大接続改革など新たな教育課題に対応できる教職員集団の育成を図る。

教員向け学校教育自己診断「校内研修組織が確立し、計画的に研修が実施されている」の肯定感(H29:53.5%、H30:56.3%、R1:36.6%)を毎年10ポイントずつ引き上げ、令和4年度には30ポイント向上させる。

エ 閲覧者のニーズをリサーチしつつ、Webページをリニューアルすることで情報の量と質を向上させ、災害時の危機管理を含め、より「開かれた学校」をめざす。

生徒向け学校教育自己診断「本校のWebページは充実しており、情報量も豊富である」の肯定感(H29:56.5%、H30:55.9%、R1:46.8%)を毎年5ポイントずつ引き上げ、令和4年度には15ポイント向上させる。

(2) 学校の組織力の向上

ア 新設した「学校運営室」「生徒支援室」の機能に実効性を持たせて運営委員会を活性化させるとともに、すべての教職員で課題を共有し、相互に資質を高め合う取組みを進め、教職員の組織力の向上を図る。

教員向けアンケート「運営委員会は十分に機能している」の肯定感(H30:72.8%、R1:69.8%)を毎年3ポイントずつ引き上げ、令和4年度には9ポイント向上させる。

教員向けアンケート「本校は計画的に人材育成を行っている」の肯定感(H30:62.5%、R1:37.2%)を毎年5ポイントずつ引き上げ、令和4年度には15ポイント向上させる。

イ 仕事の平準化・合理化に関する現状分析を行い、担任と担任外の仕事格差および教材の共有化を促進するなど、仕事の負担軽減を行う。

教員向けアンケート「教科において教材の共有化は進められている」の肯定感(H30:37.5%、R1:51.2%)を毎年5ポイントずつ引き上げ、令和4年度には15ポイント向上させる。

教員向けアンケート「担任と担任外の仕事格差の縮小」の肯定感(H30:15.1%、R1:20.9%)を毎年10ポイントずつ引き上げ、令和4年度には30ポイント向上させる。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和2年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【全般】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校へ行くのが楽しい」と回答した生徒は86%で昨年から微増した。また「子供は学校での生活に満足している」と回答した保護者は92%で昨年から微増した。 <p>【学習指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「補習や補講が生徒のニーズに沿って行われている」と回答した生徒は84%で11ポイント向上した。 ・「学力のつく授業が多い」と回答した教員は96%で13ポイント向上したが、生徒の肯定的な回答は76%で3ポイントの向上にとどまった。 ・「本校の学習だけで進路達成に必要な学力が身につく」ことについて、肯定的な回答が教員向けで76%であるのに対し、生徒向けでは55%、保護者向けでは42%にとどまったが、すべて昨年より上回った。生徒・保護者に信頼してもらえるよう、さらなる取組みと努力が必要である。 <p>【生徒指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「創造祭・体育祭などの学校行事に生徒が主体的に取り組めるよう工夫されている」と回答した生徒は87%と高い数値で、昨年からも4ポイント向上している。 ・「学校生活について先生の指導には納得できる」と回答した生徒は昨年より6ポイント向上し75%であった。 ・「教育相談体制が整備されており、生徒や教員の悩みや相談に親身になって応じてくれる」と回答した教員は80%で8ポイント下降した。新型コロナウイルス感染症の影響で不安定になった生徒が数多くいたことが一因だと思わすが、原因を究明して立て直す必要がある。 <p>【学校運営】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「本校のWebページは充実しており、情報量も豊富である」について、肯定的な回答が生徒向けでは50%、保護者向けでは56%で、昨年より微増しているが、現在進めている改修を急ぐ必要がある。 ・「教職員の同僚性」について肯定的な回答43%で9ポイント下降した。より良い学校にするため、さらなる改善が必要である。 	<p>第1回(7/8)</p> <p>令和2年度学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「アドバンス」「スタンダード」といったコースを設定している公立高校は多くないが、コース間の情報を教員がどう対処していくか、指導の山をどこに持っていくか考える必要がある。 ・進学先は関西の大学が多いが、目標の達成のために、生徒には全国に視野を広げるよう指導してもらいたい。 <p>新型コロナウイルス感染症に対応するための学習保障について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今般の事態を契機に、より良いリモート授業について考え直す必要がある。リモートが進む社会において教員の立ち位置を考え直すとともに、生徒も自分を律する「自律」が問われることとなる。 <p>教員の組織について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技術・指導に強い教員の繋がりだけでなく、積極的なスタッフによる横の繋がりของทีมで進める方がよい。 <p>第2回(12/2)</p> <p>令和2年度学校経営計画の進捗について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育をとおして早く目標を見つけると勉強もしていけるので、企業訪問などを実施することで勤労観や職業観を育成することが重要である。 ・自分のポテンシャルより低い大学を受験する生徒が多いが、もう少しレベルの高い大学を受験するよう早期から働きかける必要がある。 ・コロナ禍であっても国際交流はリモートで行うことができる。 ・学力以外の徳育や体育に部活動は必要なので、運営について生徒自身に考えさせることも必要なのではないか。 <p>第3回(2/19)</p> <p>令和3年度学校経営計画の「めざす学校像」及び「中期的目標」については承認。</p> <p>令和2年度学校評価について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員の同僚性を高めるため、教員でビジョンワーク等をしてみてはどうか。 ・語学研修で海外に行けない今こそ読書活動を勧めてはどうか。 ・人間形成のため、避難訓練をはじめとした地域との連携を進めてはどうか。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>1 思考力・判断力・表現力を養い主体的に学ぶ力を育成する</p>	<p>(1) 質の高い授業の提供 ア 授業アンケートの活用及び研究授業などの活性化</p> <p>(2) AL型授業の促進 ア AL型授業を取り入れ、授業改革に取り組む</p> <p>(3) 探究心をもって主体的に学ぶ力の育成 ア 自己の在り方生き方と関連付けた主体的な学びの促進</p>	<p>(1) ア・年2回の授業アンケートで自由記述を行い、生徒の声に真摯に向き合う。 ・公開授業・研究授業などに組織的に取り組む。</p> <p>(2) ア・校内外の研修に参加し、AL型授業の研究授業を実施する。</p> <p>(3) ア・「総合的な探究の時間」をチームで検討するとともに、生徒に対し学校内外の授業以外の学びの場に積極的に参加するよう促す。 ・講習・補習を充実させる。 ・自習室やラーニングコモンズを積極的に活用するよう促す。 ・VOD型学習のさらなる活用を図る。</p>	<p>(1) ア・生徒向け学校教育自己診断「学力のつく授業が多い」(令和元年度肯定感72.6%)「本校の学習だけで、進路達成に必要な学力が身につく」(同49.7%)を3ポイント上昇 ・授業アンケート「授業内容に興味・関心を持つことができた」(令和元年度肯定感80.0%)「授業を受けて知識や技能が身についた」(同83.2%)を2ポイント上昇</p> <p>(2) ア・生徒向け学校教育自己診断「思考力・判断力・表現力を養う工夫をしている先生が多い」(令和元年度肯定感63.9%)を3ポイント上昇 ・教員向けアンケート「AL型授業を実践した」(同68.3%)を3ポイント上昇</p> <p>(3) ア・保護者向け学校自己診断「学校は社会に役立つ有意義な人材を育成しようとしている」(令和元年度肯定感72.1%)を3ポイント上昇 ・生徒向け学校教育自己診断「授業以外にも興味・関心を持たせる学びの場がある」(同53.9%)を3ポイント上昇 ・生徒向け学校教育自己診断「補習や補講が生徒のニーズに沿って行われている」(令和元年度肯定感72.5%)「自習室の開放は学習時間の確保に役立っている」(同61.4%)を3ポイント上昇 ・教員向けアンケート「VOD(Video on Demand)型学習は学力の向上に役立っている」(令和元年度肯定感68.3%)を3ポイント上昇</p>	<p>(1) ア・生徒向け学校教育自己診断「学力のつく授業が多い」は75.6%で3ポイント上昇した。さらに授業研究に積極的に取り組みたい。() ・「本校の学習だけで、進路達成に必要な学力が身につく」は55.4%で5.7ポイント上昇した。() ・授業アンケート「授業内容に興味・関心を持つことができた」は85.5%で5.5ポイント、「授業を受けて知識や技能が身についた」は87.9%で4.7ポイント上昇した。()</p> <p>(2) ア・生徒向け学校教育自己診断「思考力・判断力・表現力を養う工夫をしている先生が多い」は68.8%で4.9ポイント上昇した。() ・教員向けアンケート「AL型授業を実践した」は75.9%で7.6ポイント上昇した。()</p> <p>(3) ア・保護者向け学校自己診断「学校は社会に役立つ有意義な人材を育成しようとしている」は82.6%で10.5ポイント上昇した。() ・生徒向け学校教育自己診断「授業以外にも興味・関心を持たせる学びの場がある」は59%で5.1ポイント上昇した。() ・生徒向け学校教育自己診断「補習や補講が生徒のニーズに沿って行われている」は83.9%で11.4%、「自習室の開放は学習時間の確保に役立っている」は85%で23.6ポイント上昇した。() ・教員向けアンケート「VOD(Video on Demand)型学習は学力の向上に役立っている」は72.2%で3.9ポイント上昇した。VOD型学習の活用について、教員の研修を進めたい。()</p>
	<p>2 高い志を持ち進路実現をめざすためのキャリア教育を充実させる</p>	<p>(1) 進路実現の意識の醸成 ア 探究学習などの充実</p> <p>イ キャリアカウンセリングの充実</p> <p>(2) 進学実績の向上 ア 二つのコース間の切磋琢磨の促進</p> <p>イ 進学実績の向上</p>	<p>(1) ア・「総合的な探究の時間」の充実を図る。 ・進路別分野別説明会・大学見学・卒業生との対話集会等の充実を図る。</p> <p>イ・キャリアカウンセリングを充実させ、個々の生徒の学習状況・進路志望状況を十分に把握する。 ・キャリア教育の取組みにおいて、生徒に振り返りさせることを定着させる。</p> <p>(2) ア・二つのコースのキャリア教育、特にスタンダードコースのキャリア教育に重点を置く。</p> <p>イ・国公立大学及び難関私立大学の進学実績の向上を図る。 ・「夢と志」を持たせ、失敗を恐れさせないようなガイダンスを実践する。</p>	<p>(1) ア・生徒向け学校教育自己診断「ホームルームや『総合的な探究の時間』などで進路や生き方について考える機会がある」(令和元年度肯定感77.5%)を2ポイント上昇</p> <p>イ・生徒向け学校教育自己診断の「学力学習実態調査・到達度テスト・模試は、学習に取り組む態度を改善するために役立っている」(令和元年度肯定感57.7%)を3ポイント上昇</p> <p>(2) ア・生徒向け学校教育自己診断「本校のコースは、学習環境の充実や進路実現に役立っている」(令和元年度肯定感75.2%)を3ポイント上昇 ・同項目の両コース間の差(令和元年度アドバンスコースの肯定感-スタンダードコースの肯定感=11.3ポイント差)を9ポイント以内にする。</p> <p>イ・令和2年度卒 国公立20名、関関同立近150名以上をめざす。(令和元年度卒 現役実人数：国公立9名、関関同立近136名)</p>

府立布施高等学校

<p>3 人と繋がり、社会と繋がり、世界と繋がる力の育成をめざす</p>	<p>(1) 自主活動の推進発展 ア 行事・クラブ活動などの自主活動の促進</p> <p>(2) グローバル資質の育成 ア 海外研修・国際交流の促進</p> <p>(3) ローカル資質の育成 ア 学校説明会の充実と地域への貢献</p> <p>イ 地域連携の促進</p> <p>ウ 防災教育の推進</p>	<p>(1) ア・既存のシステムをより活性化させて、自主活動を促進し、コミュニケーション能力・組織力・マネジメント力を養う。</p> <p>(2) ア・海外での語学研修や国際交流、留学生の受け入れなどを促進し、グローバル資質の育成を行う。</p> <p>(3) ア・保護者・中学生・中学校教員への学校説明会の充実をはかる。 ・地域の活動に貢献する。</p> <p>イ・司馬遼太郎記念館との連携をはじめ、大学、公共施設、民間団体などとの連携を促進する。</p> <p>ウ・自校での防災意識を高めるとともに、地元の小中学校・自治体等と連携した防災活動を推進する。</p>	<p>(1) ア・生徒向け学校教育自己診断「ホームルーム活動は活発」(令和元年度肯定率 75.8%)、「学校行事に生徒が主体的に取り組める工夫」(同 83.7%)、「部活動や自治会活動などの自主的な力を伸ばす」(同 76.5%)を 2 ポイント上昇</p> <p>(2) ア・生徒向け学校教育自己診断「国際理解教育に力を入れている」(令和元年度肯定感 69.4%)を 2 ポイント上昇</p> <p>(3) ア・入試の志願倍率(令和 2 年度入試 1.27 倍)の維持</p> <p>イ・教員向けアンケート「本校はさまざまな地域の活動に参加・貢献している」(令和元年度肯定感 76.7%)を 3 ポイント上昇</p> <p>ウ・生徒向け学校教育自己診断「本校で地震や火災の際の対応は知らされている」(令和元年度肯定感 70.3%)を 3 ポイント上昇</p>	<p>(1) ア・生徒向け学校教育自己診断「ホームルーム活動は活発」は 76.9%で 1.1 ポイント上昇したが目標には達しなかった。() ・「学校行事に生徒が主体的に取り組める工夫」は 87.3%で 3.6 ポイント上昇した。上記の項目とともに、企画段階から生徒が主体的に参加するなどし、さらに自治会活動を活性化させたい。() ・「部活動や自治会活動などの自主的な力を伸ばす」は 81.6%で 5.1 ポイント上昇した。()</p> <p>(2) ア・生徒向け学校教育自己診断「国際理解教育に力を入れている」は 67.1%で 2.3 ポイント下降した。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で予定していた行事が全て中止になった影響が大きい。(-)</p> <p>(3) ア・本校での説明会は 3 回の予定が 2 回となったが充実したものを実施できた。また、中学校や市主催の説明会には積極的に参加した。 ・令和 3 年度入試の志願倍率は 1.4 倍で 0.13 ポイント上昇した。() イ・教員向けアンケート「本校はさまざまな地域の活動に参加・貢献している」は 69.8%で 6.9 ポイント下降した。今年度は感染症の影響で思うような活動ができなかった。(-) ウ・生徒向け学校教育自己診断「本校で地震や火災の際の対応は知らされている」は 75.7%で 5.4 ポイント上昇した。()</p>
<p>4 自律心・自尊心の育成と安全安心な学習の場の提供</p>	<p>(1) 個々の生徒への丁寧な指導と支援 ア 挨拶指導・遅刻指導</p> <p>イ 教育相談委員会の活性化</p>	<p>(1) ア・挨拶指導・遅刻指導を促進する。</p> <p>イ・教育相談委員会の活性化および生徒支援の充実を図る。</p>	<p>(1) ア・年間遅刻回数を 1,800 件以下にする(令和元年度 2,259 件)</p> <p>イ・生徒向け学校教育自己診断「学校は悩みや相談に親身になって応じてくれる」(令和元年度肯定感 67.9%)を 3 ポイント上昇</p>	<p>(1) ア・年間遅刻回数は 1,552 件であった。()</p> <p>イ・生徒向け学校教育自己診断「学校は悩みや相談に親身になって応じてくれる」は 72.6%で 4.7 ポイント上昇した。()</p>

府立布施高等学校

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">5 教職員集団「チーム布施高校」の育成</p>	<p>(1) 教育課題に取り組む教職員集団の育成</p> <p>ア チームワークのある教職員集団の育成</p> <p>イ 教職員の授業力・キャリア教育力の向上</p> <p>ウ 新たな教育課題に対応できる教職員集団の育成</p> <p>エ Web ページのリニューアル</p> <p>(2) 学校の組織力の育成</p> <p>ア 運営委員会の活性化及び相互に資質を高め合う取組みの推進</p> <p>イ 「働き方改革」の推進</p>	<p>(1)</p> <p>ア・教職員の意識改革を行い、学校経営計画の実現に向けた組織運営を推進する。</p> <p>イ・学校経営計画の1及び2を実行することにより、教職員の授業力・キャリア教育力の向上を図る。</p> <p>ウ・校内研修の開催、校外研修への参加、研究授業の実施を促進する。</p> <p>エ 在校生や保護者のニーズをリサーチし、その結果を生かして必要なコンテンツを精選し、見やすいWebページを作成する。</p> <p>(2)</p> <p>ア・「学校運営室」および「生徒支援室」の両室長(首席)と分掌長・学年主任・委員長が有機的に連携する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営委員会の議論の活性化、OJTの推進、課題の共有や解決法を検討するグループワーク及び自主勉強会等を推進し、教職員の力量向上を図る。 <p>イ・仕事の平準化・合理化に向けた現状把握・分析を行い、安全衛生委員会を機能させ、業務の負担を軽減させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科における「教材の共有化」を促進する。 ・担任と担任外の仕事格差を縮小する。 	<p>(1)</p> <p>ア・教員向け学校教育自己診断「本校がめざす学校像を実現するために、教職員は同僚性を高め、協力して教育活動を行っている。」(令和元年度肯定感 51.2%)を5ポイント上昇</p> <p>イ・生徒向け学校教育自己診断「学力のつく授業が多い」(令和元年度肯定感 72.6%)「本校の学習だけで、進路達成に必要な学力が身につく」(同 49.7%)「思考力・判断力・表現力を養う工夫をしている先生が多い」(同 63.9%)を3ポイント上昇</p> <p>ウ・教員向け学校教育自己診断「校内研修組織が確立し、計画的に研修が実施されている」(令和元年度肯定感 36.6%)を10ポイント上昇</p> <p>エ・生徒向け学校教育自己診断「本校のWebページは充実しており、情報量も豊富である」(令和元年度肯定感 46.8%)を5ポイント上昇</p> <p>(2)</p> <p>ア・教員向けアンケート「運営委員会は十分に機能している」(令和元年度肯定感 69.8%)を3ポイント上昇</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「本校は計画的に人材育成を行っている」(同 37.2%)を5ポイント上昇 <p>イ・教員向けアンケート「教科において教材の共有化は進められている」(令和元年度肯定感 51.2%)を5ポイント上昇</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「担任と担任外の仕事格差の縮小」(同 20.9%)を10ポイント上昇 ・時間外勤務月 80 時間以上の職員を1桁台にする。 	<p>(1)</p> <p>ア・教員向け学校教育自己診断「本校がめざす学校像を実現するために、教職員は同僚性を高め、協力して教育活動を行っている。」は42.6%で8.6ポイント下降した。教職員同志が忌憚なく話ができる機会を設け、円滑なコミュニケーションを図っていききたい。()</p> <p>イ・生徒向け学校教育自己診断「学力のつく授業が多い」は75.6%で3ポイント上昇した。さらに授業研究に積極的に取り組みたい。()</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「本校の学習だけで、進路達成に必要な学力が身につく」は55.4%で5.7ポイント上昇した。() ・「思考力・判断力・表現力を養う工夫をしている先生が多い」は68.8%で4.9ポイント上昇した。() <p>ウ・教員向け学校教育自己診断「校内研修組織が確立し、計画的に研修が実施されている」は57.4%で20.8ポイント上昇した。()</p> <p>エ・生徒向け学校教育自己診断「本校のWebページは充実しており、情報量も豊富である」は49.9%で3.1ポイント上昇した。現在、Webページを改修中であり、来年度以降は見やすさも内容も充実したものにしたい。()</p> <p>(2)</p> <p>ア・教員向けアンケート「運営委員会は十分に機能している」は64.8%で5ポイント下降した。委員会自体の活性化とともに会議の内容を周知する必要がある。()</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「本校は計画的に人材育成を行っている」は44.4%で7.2ポイント上昇した。() <p>イ・教員向けアンケート「教科において教材の共有化は進められている」は53.7%で2.5ポイント上昇した。さらなる進展を図っていく。()</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「担任と担任外の仕事格差の縮小」は38.9%で18ポイント上昇した。() ・時間外勤務月 80 時間以上の職員数は12だった。()
--	--	--	--	--